



旧若杉小学校跡地の本格活用に関するワークショップ（第2回）

対話・検討のポイントと、他都市の事例

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY  
東京都立大学

ワークショップや市民対話では、多様な意見が出てくる

**キーワード**

- ・ランチルーム、図書室、資料室 3つのつながり
- ・思い出の教室
- ・子どもの見守り、花見

「これがほしい」「どれが足りない」「あれを解決しないと」「それをやったらいい」・・・

議論の的が絞られなければ、様々な事象について、参加者の数だけ、要望や課題意識に基づくたくさんの意見が出てくる。

**① 見守り空間**

- ・主役は子どもたち、子どもたちが活躍でき、ずっと眺めていく場所づくり
- ・お年寄りの見守り所となり、障がい者も障害者も受け入れられる施設

**② 学びの場**

- ・子どもたちが学びたい科目や活動、興味のある分野を自由に選べる
- ・子どもたちが学びたい科目や活動、興味のある分野を自由に選べる

**③ 図書・資料室**

- ・図書・資料室を設け、学生は自由に閲覧できる
- ・図書・資料室を設け、学生は自由に閲覧できる

**④ 交流の場**

- ・交流の場を設け、学生は自由に交流できる
- ・交流の場を設け、学生は自由に交流できる

# どうやって考える？ 何を想像する？

相模原市光が丘地区ですすめる「将来の廃校の活用事前検討」

**2 跡地活用のイメージ**

**第2回 跡地活用のイメージ**  
2021年12月19日(日) 光が丘公民館

**ワークテーマ** 施設を見て、既存ストックを使ってやりたいことを考える

青葉小学校 見学 | 陽光園の施設概要説明 | ワーク1-2 | 発表

「学校の先生」や「施設管理者」に話を聞きながら、施設の

陽光園の奈良担当課長から施設概要を説明してもらい、陽光園に

ワーク1で、見学して気づいたことを共有。ワーク2で、「やってみよう」というテーマで、

自分のグループ議論になったこと他のグループに

**4 再編案のまとめ**

**第4回 再編案のまとめ**  
2022年3月21日(月・祝) 光が丘公民館

**ワークテーマ** 実現に向けて、自分事としてアイデアなどを考えて再編案をまとめる

ワーク1 | ワーク2 | 発表 | 総評

これまでを振り返り、再編コンセプトに書きをかける。そして実現

ワーク1をふまえ、ジェニシングを再検討し、再編案をまとめる

自分のグループで議論になったことを他のグループに発表

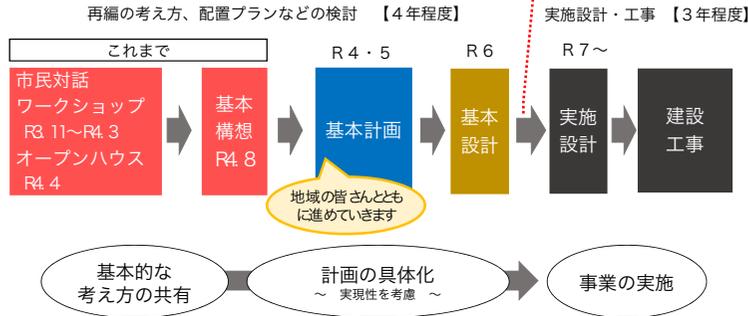
講師先生からの、最終的の地球へ向けたメッセージ「光が丘地

将来の廃校（＝資産）活用を先回りして考える取り組み

当初から市民参画で議論をすすめる。まずは基本構想。

### 全体のロードマップ

- R3年度の市民対話ワークショップとオープンハウス（コミセンやショッピングセンター等でPRし意見をもらう）等を経て、まずは基本構想を作成。
- 続いて、R4年度に、その施設の事業の骨格を決める基本計画に向けて、さらに市民検討会を開催。
- 基本構想で浮かび上がった**“使い手の主役”**である**「子ども・若者」**の声を聞くため、こどもワークショップも企画・開催。



### 議論を経て出てきたキーワードとコンセプト

**光が丘ランドマーク**

地域の主要拠点 → 子どもから大人までが楽しめる場所に

**空間利用のアイデア**

- ・地域の中心として公民館と一体化利用
- ・ふれあいゾーン(誰でも自由に使える場所)
- ・共有スペース(災害時は避難場所に)
- ・くすの木のライトアップ等 → 夜間照明の成長を感じながら過ごした思い出やイベント
- ・体育館やカフェの調理場を利用し、緊急時は避難の炊事場となる
- ・思い出の教室・学習支援教室 → 卒業制作等を展示したり、学習支援ができる場を設ける

**実現に向けたアイデア**

- ・目指す未来像
- ・地域の皆さんが笑顔になれる場所、憩いの場
- ・久しぶりに会う人と会話ができる場
- ・多世代交流の場「スクランブルスペース」
- 「光が丘スクエア」「青葉くすの木ホーム」

**Kusunoki**

**空間利用のアイデア**

- ・屋上に太陽光パネルの設置
- ・体育館とプールの一体化、校庭の多目的利用
- ・広い校庭の活用 → 体育授業もしてコンクリート会場に活用
- ・使用しない人のために貸し出し、移動する → 市民ワークショップやササキ等が出来るようにする
- ・校庭の多目的利用 → 体育館やプールを一体化し、1Fをプールに活用
- ・屋上にも利用できるフリーバルコニーを設置
- ・屋上でも利用できる子ども教室・学習支援・地域講座・講座
- ・公民館の土地を確保して市民小学校上層を公民館、地域へ利用

**実現に向けたアイデア**

- ・療育園とのつながり
- ・隣接公民館との連携

主役・連携資産・地域の関わり方など、議論の骨格が完成

### 光が丘地区学校跡施設（青葉小学校）利活用基本構想 (R4. 8)

市民対話ワークショップの成果等を踏まえ、本事業の実現に向けた基本構想として、基本理念と方針などをまとめました。

基本理念及び方針（視点）



地区の住民、地区の資産を俯瞰して、「誰が主役か」「どんな資産とつながるか」「地域はどう関わるか」、話題の中心の小学校施設の利活用の“ビジョン”を描く。

### 『誰』を想像しながら

- そのテーマで「誰が主役」になるか、想像しよう
  - 一旦、自分の視点を取り払って、設定したテーマの中で主役になる「誰」を思い浮かべる。
  - 「誰」になりきって、どんな場所・空間だったらワクワクするか、楽しめるか、テーマに叶うか、できるだけ具体的に想像してみる。
- そこに「自分」がどう関われるか、考えよう
  - 「誰」のために「自分」ならどう関われるか、考える。
  - 場合によっては、自分よりも強力な「誰か」がいる可能性も。行政かもしれないし、隣人かもしれない。「任せる」ことも恐れずに。

# 公共用地の利活用事例

他都市の事例：

## 立川市子ども未来センター（庁舎→複合施設）

既存施設  
活用＋解体

### この事業の ポイント

- 立川市庁舎の移設に伴い、旧庁舎を一部解体、一部改修した公共施設。
- 子育て支援施設や「まんがばーく」などが入り、立川市のグランドデザイン事業の第1ステージとして、第2庁舎の改修利用と第1庁舎解体後の遊休地を活用する事業。



画像：https://mangapark.jp/

- 用途：複合施設（公園、子育て、教育、市民活動、文化芸術活動）
- 敷地面積：9,222m<sup>2</sup>、延床面積：4,320m<sup>2</sup>

- 1970年に竣工した立川市役所第2庁舎を改修し、子育て、教育、市民活動、文化芸術活動を支援しながら、イベント実施などによって地域のにぎわいを生み出す。築43年の建物(第2庁舎)の再利用によるストック活用のアイデアを、PPP(公民連携)という事業手法を活用し再整備した。第1庁舎は老朽化が進行していたため解体し、駐車場と芝生広場へ。
- 管理運営は、各機能のノウハウを持った民間事業者によって行われている。

他都市の事例：

## 多摩市KITAKAIさんぽ館（小学校→複合施設）

既存施設  
活用

### この事業の ポイント

- 廃校後に市民活動の暫定利用の場のひとつだった旧小学校施設を、市民活動拠点＋文化財保存の施設へと改修した公共施設。
- 利用団体や周辺住民と市民ワークショップを重ねて基本方針を策定。ワークショップの中で見出した課題解決を、事業者選定（指定管理）に活かした。



- 用途：複合施設（市民活動・交流、文化財収蔵・展示）
- 敷地面積：21,901m<sup>2</sup>、延床面積：4,933m<sup>2</sup>

- 1983年に竣工した多摩市立北貝取小学校を改修した複合施設。
- 多摩市では廃校になった複数の学校施設の暫定利用を認めていた。施設老朽化に伴い、それらは順次、暫定利用を終了していったが、一校だけは市民活動のための拠点として、文化財収蔵機能との複合施設として再整備した。
- 市民ワークショップの中で見つかった「利用者・団体も運営に関わるべき」という精神が、事業者選定や運営協議会の設置等に生かされている。

他都市の事例：

## 世田谷区さくら花見堂（小学校→複合施設）

既存施設  
解体

### この事業の ポイント

- 区立花見堂地区会館、区立代田南児童館、ほわわ花見堂（児童発達支援）からなる複合施設。
- 2012年に閉校決定してから8年間で3c回におよぶワークショップを開催し、区民と行政とが協働して構想をつくった。運営にも、当時参加していた区民や団体が参画している。



画像：https://www.nakajimax.co.jp/projects/detail/post-4531/

- 用途：広場、地区会館、児童館、児童発達支援事業所
- 敷地面積：5,666m<sup>2</sup>、延床面積：2,989m<sup>2</sup>

- 花見堂小学校は1959年に創立。2012年に統合提案があったが、単独閉校を選択。
- 地域で果たしてきた「子どもが集う場」「地域コミュニティの核」「地域防災機能の拠点」という役割を担い継承する施設。
- 施設立ち上げのワークショップにも積極的に参加してきた個人や花見堂小学校の体育館や校庭を活動拠点としていた団体による「さくら花見堂の会」が世田谷区と協定を結び、運営している。

他都市の事例：

## 豊島区イケ・サンパーク（造幣局庁舎→防災公園）

既存施設  
解体

### この事業の ポイント

- 造幣局の硬貨を作る工場の跡地を、生活につながる場へ転換。
- 単なる広場としての公園ではなく、多彩な魅力が溢れるこの地域で様々な活動を行い、区民と一緒により良い暮らしを育む新しいカタチの公園に。



画像： <https://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress63/special1.html>, <https://www.nissoken.co.jp/news/4087>

- 用途：芝生広場、災害対策拠点、カフェ
- 敷地面積：17,000m<sup>2</sup>、延床面積：1,635m<sup>2</sup>

- 火災の延焼を防ぐシラカシによる防火樹林帯などのある、区内最大の防災機能を備えた公園。
- 首都直下地震等の大規模災害の発生時には、豊島区の災害対策拠点として機能する他、平時から物資集積拠点運営訓練や「としまDOKI DOKI 防災フェス」の開催など、地域の防災力を高める活動の場に。
- 跡地の残りは、東京国際大学キャンパス+としまキッズパークを整備。

他都市の事例：

## 川崎市KOSUGI iHUG（総合自治会館→複合施設）

既存施設  
解体

### この事業の ポイント

- 総合自治会館跡地の活用について、住民との意見交換や事業者へのサウンディング調査を実施し、土地利用方針を策定。
- 野菜や果物を育て、収穫し、そして食べる。広々とした芝生広場などでは、世代を超えた交流を育む各種イベントを開催。



- 用途：農をテーマにした複合施設（農体験・学習、調理、飲食、健康、交流、など）
- 敷地面積：2,915m<sup>2</sup>、延床面積：1,635m<sup>2</sup>

- 老朽化した総合自治会館の移転に伴う跡地等活用事業。ニヶ領用水に隣接する立地を活かした緑豊かな居心地のよい空間の創出や、多世代が集い、交流し、多様なアクティビティを促す空間として活用。
- コンセプトは「誰もが健康にいのちを育む～武蔵小杉のふるさと」。“農”シェアリングファーム（トレファーム）、“食”アウトドアダイニング、“健康”ウエルネスリビングの観点からそれぞれ事業展開を行う。